



# Toolと人



のせゆかり

1. ワークショップの目的

2. ワークショップ構想にあたって出されたアイデア

## ワークショップの目的

---

本ワークショップは高校生を対象としたもので、開催の日程は2日間とする。

普段私たちは多様な情報ツールを使用している。例えば何か情報を得たいと思ったとき、テレビやラジオをつけたり、新聞を読む。また何か情報を発信したいときには携帯電話・スマートフォンやパソコンを立ち上げるのではないだろうか。このように私たちは普段何らかの情報にアクセスして生活しており、現代社会において情報へのアクセスは必要不可欠となっている。以上のことからツールと人は密接に関係しているといえる。

ところで、私たちは毎日ツールを使用しているが、ツールには特性があることを理解し、その上でそのツールを適切に使用できているだろうか。ツールの使用を誤ると、様々な問題がおり、自分だけでなくたくさんの人々に迷惑をかけ、社会問題へと発展する恐れがある。例えばTwitterで自分が発した言葉や内容によって他者を傷つけたり、その内容でたくさんの人が迷惑することもある。このように、ツールを利用目的や状況に応じて適切に使用をすることは、私たちが生活していく上で大変重要なことである。そこで今回はツールと人が相互に与える影響について、改めて考えなおすワークショップを行い、参加者の高校生にツールの使用やこれからの付き合い方、正しい利用に関する知識を持ってもらうことを目的としたワークショップを開催する。

。

## ワークショップ構想にあたって出されたアイディア

---

大きなテーマとしてToolと人ということで、人がインターネットやアプリケーションなど、情報ツールを使うことで、良いことだけでなく様々な問題が生じる可能性があるということワークショップで学び、ツールと人とのより良い関係、普段何気なくしているツールの利用について改めて考えるワークショップをしようということが最初に大まかに決められた。その上でKJ法を用いてワークショップの内容について、班のメンバー各々がどんなことをワークショップでしたら良いか、高校生にどんなことを伝えたいかという案を出し合った。

### ワークショップの企画<知るを中心に>

最初に「そもそもメディアとかツールってなんだろう？」という意見がメンバー内で出され、普段利用している情報ツールなどについてカードをつくった。その上で、普段使っているツールでどんな問題が起こり得るかや、社会問題となっているあるいはなつたことがある問題にどんなことがあるのかを話し合った。作成されたカードとしては、班のメンバーが普段利用しているツールは、TwitterやmixiなどのSNSや、Youtubeなどの動画サイトがあげられた。その上でそれらを利用することで起こり得る問題について作成されたカードは、炎上や著作権や財産権の侵害、人物のなりすまし問題や嘘の情報に惑わされることなどが問題として挙げられた。以上のことからワークショップでは、最初にメディア全体のことを大まかに説明し、「メディアとか情報ツールってなんだろう？」「どんなものがあるのかな？それぞれにはどんな特性があるの？」ということを高校生と一緒に考える時間をワークショップ冒頭に設けることとした。

冒頭でメディア全体のことを説明した後は、実際に使っている身近な情報ツールを使ってメディアと人が相互に与える影響をわかりやすく解説していくというアイディアが出された。実際にどんな情報ツールをみんなが普段利用しているかを聞き、使用する目的や状況にあわせて使用する情報ツールを変えるのかや、目的にあわせた適切な情報ツールの選択や使用を参加者の高校生と考え、情報ツールにもさまざまな特徴があり、使用目的・状況にあわせて適切な利用がなされなければならないということ、ワークショップを通して学んでもらう。話し合いの冒頭で出された普段班員がどんな情報ツールを利用しているかなどのカードを、ツールのイメージで分類した。例えばSNSは人と繋がれるし楽しいイメージ。論文を検索するのに使用するツールは真面目なイメージ。などである。

その上で、班員が普段利用しているツールの中から実践形式で人とツールが相互に与える影響を学ぶミニ演習の題材を考えた。題材としては、炎上を体験してもらうことやTwitterの公式アカウントと一般ユーザーの情報はどう違うのかを分析することや、表現方法の違いとしてオフィスツールを使ってみるなどの案が出された。

